夕刊 磐城新聞
一月二十一日發行
（日曜祭日翌日休刊）

郷土歌集としての「山花集」の價値（二）

清野重郎

私の處へ初めて歌をもつて來られたのは昭和四年の秋の頃と記憶してゐるが、その頃の生方さんの作と云へば本當に奥様のおたのしみ程度で歌もさしてうまくなかつた。然し生方さんと云ふ人に一見何處か素朴な所があり其の中に從順でしかも熱情をもつてゐると云ふ日本婦人の良風が見えて何處か誠にたのもしい感じを人に與へた（中略）

生方さんが翻然と作歌に熱中しはじめたのは昭和五年の秋頃からであつた生方さん自身は何を悟られたのかはつきりしらないけれど、兎に角自分の道をみつめ、自然をみつめ本當に歌をする氣になつたらしく今迄の遊び半分の氣持とはぐつと違つて本當の勉強をしはじめられたのである

それから丸五年の間郷の薬會員として實に涙ぐましい努力を以て歌の道にいそしまれた。生方さんの熱心は日常生活について云へば例へば二月の寒い頃だ子さんをつれて伊勢の郷里から沼田の生方家へ歸る途次などでも夜汽車にゆられて來た朝の東京驛に五時を幾らも廻らぬ時間に降り立つて自動車を私の家に走らせ、私のまだ寢てゐる中から應接間に陣取つて待參して來てゐる歌の原稿を示し、どうしても私の批評をきかないうちは出立しないと云ふ熱心さであつた

昭和七年からめつきりと歌柄が大きくなり、つかまへ所も實にはつきりとして良い歌と思はれるものが出來る様になり、拜見してゐて思はず聲を出して私かそれを云ふ程の作を示される樣になつた一首一首は集についてこれを味はれたいが「冬の厨」「水上温泉」「利根川急流」等の各聯に云ふ中にもすぐれてゐるものだと思はれる

生方さんの歌の特色は土臺を寫生におき、特にその地方色をよく出してゐる所にあると思ふ。實生活に忠實に居りつつ鳥獸魚介を實に深く見てゐる點など、地方の女流歌人として誠に大いなる特色を發揮して居られると思ふのである（下略）

◇

郷土に取材した秀歌を少しく抄記することとする

霜月廿八日謹賦

珠雲 小野務平

皇家有慶弄璋鳴
文武百僚朝鳳城
靉靆瑞雲籠上苑
普天率土溯歡聲

絶望（詩）

野地隆

たそがれかやつて來たわい……
夕陽の赤いのも儂には悲しうてならない！
儂ももうすぐあの世へ行かねばならない時期になつたわい！
六十年來泊はれるやうに働いた儂は
へと／＼につかれた
生きるために未だこの儂は働かねばならないのか？
わしはわしは靜かな處で休みたくなつた
わしは血縁のないさびしい孤兒
溫い血緣のないわしはさて何處で休まう？
休む處もないわしは今宵もまた安い酒で醉はねばならないだらうか？
あゝ！
わしはわしは休みたくなつた

舊師

高久晩霞

○舊師みな在さぬ故郷の學びやに一人の御名をなつかしみ聞く
○ありし日の逞ましさなほ衰へで賴もしわが師敎壇に立たす
○數々の思ひ出多き先生の舊姓などふと呼びしかな

（白水阿彌陀堂）

○古しへを榮えし國の夢の跡靜かに語るけ高き甍の香
○たくみ等が古き甍あとわが郷に遺るといふに尊ときものを

陰徳あれば陽報あり 六

中外商業新報社 福富恒樹

然るに自分は何等の知合でもなし、積極的運動したこともないのに何故自分に對し先方から申込むのであらうかと

その理由を聞いて見るとかういふ譯だつた。その專門學校の校長さんの娘が女學校時代の制服及び婦人服地をその店から買つて居たのであり、その店のやり方から一切がその娘さんを非常に感激せしめて居た。たま／＼專門學校の方で制服を決定するにつき校長さんは自分の娘から『あの店に限る』と推薦せられたといふ譯である

『いろ／＼運動して來る人もあり、知人から紹介される人もあるが、話によるとあんたの店が理想的だと思ふから是非學生連の面倒を見てやつて欲しい』との挨拶で、ここには婦人服店主も二の句が告げず考慮の餘地もなく感激して引受けたとのことだつた

われ／＼はかうした話を日常茶飯事の例として見逃してはならない

日頃の誠心あるやり方、心から客のためを思つて爲す行動に對しては、誰かゞ目を見張つてゐるものだ。つまり報酬を豫期せざる陰徳はいつの間にか先方からその報酬を申出でる陽徳となつて現はれて來る

1月22日

△大鹽平八郎生る（寛政五）△バイロン誕生（一、七八八）△幕府遣米使節一行ポーハタンに便乗浦賀出帆（安政七）△平の鐘紡誘致運動斷上京交渉（昭和一〇）

講談 黄金魔刄 (55)

高桑義生作 樋口悦也畫

（七）網籠の中

東左衛門一行の泊つてゐた升見屋の近くまで來ると快傳に道ばたに一人の乞食の男を見つけた

『おい』

快傳は懷中をさぐつて小錢をつかみ

『手を出せ』

だまつて出す手に、のせてやつて

『今しがた彼處から大勢出て行つたらう。かごが二挺人數は二十五六人かな』

『ウム、ありやア大金持だ畜生ッ』

『さうだ、何方へ行つたか敎へてくれ』

『向うよ、濱手の方よ』

乞食は東を指さした

『どうだ、お前案內してくれぬか。おいらは旅の者で土地不案內だ。そいつらはこれから船を出すのだ。赤間ケ關へ渡る船──そんな處があるだらう』

快傳は財布から小粒を取り出した

『それ。近くまで行つてくれりやア結構だ』

乞食はうなづいてスタ／＼と歩き出した

快傳は四五間あとからくつついて行つた。まもなく町並を切れて蒼茫たる田圃道、どうやら近道かと思はれた

月の光がみなぎつて夜露は霜にかはつたらしい。松並木の向うから浪の音が聞えて來た

漁師の家が點々と灯してゐる

『おい／＼、なんだか妙な處ぢやねえか。赤間ケ關へわたるのに、こんな處から船が出るのか？』

と快傳はいつた

『間違ひはねえのです。あの灯の見えるのが內裡といふ處だ』

『お前、なにか聞き込んだのか？』

『ウム、通りすがりに內裡といふのを聞いたんだ。赤間ケ關へ渡るんぢやねえんでせう』

『さうか』

快傳は半信半疑である。赤間ケ關へ渡るのでないとすると、何處へ行くか？急に模様をかへてこゝから船で江戸へ行くのかも知れない？

松原を出ると、月光の海にくろぐろと大船が浮んでゐた

『あツ、こりや本當だ』

思はず快傳はつぶやいた

『そうれ、向うに提燈が見える。かごも──馬もゐるれだ』

乞食のいふ通りである

『違えねえ。もういゝや』

快傳は乞食をのこして走つて行つた。かれは再び松原に入つた

東左衛門の一行三十餘名は丁度內裡の濱に着いたところ、內裡は（今は大里と書かれてゐる）船着きとは名ばかりの半農半漁の寒村であつた

豫定のごとく博多から回漕させた三百石積みの大船有明丸はゆつたりと浮んでゐる。主人の乘船を待つてゐるのだつた

一行は馬から荷物をおろして小船に積んでゐた。二艘の船は浪打ちぎはにゆられながら船夫がつかむ綱でさゝへられてゐるのである

さうして謎の二挺のかごは月の光にまざ／＼と照らされて寂然として砂上においてあつた。その傍に東左衛門と錦藏が二人とも羅紗の合羽を着て立つてゐる

『なに、かごのまゝではいけないといふのか』

と東左衛門

『はい、むづかしうございますから』。御覽の通り船が搖れ

『さうですな。こりやアちよつとむづかしい』

と錦藏もいつた

『さうか。だめだといふならやむを得ない。お京』

とかれは一挺のかごに呼びかけた

『はい』

『お染を出してやつてくれ！』

すらりとして美しい女の姿がかごからあらはれた。そしてお染のかごに寄つた

特許ドンコ帳簿
諸帳簿
複寫便箋。仕切
㊜魁文堂
電話313番

二十二日（小名濱測候所調查）

日出	六、四四	月出前	四、五〇
日沒	四、五三	月沒後	二、三六
滿潮前	四、一五	平潮前	八、二〇
後	一、一〇	後	九、一五

水曜 一月廿二日 癸卯 先負 八滿 壁宿

賭判定應需 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 吉運と雖輕卒に事を企つればふ安を招す日▲二黒 身心勵ようし進退決せず遲々として得るなし▲三碧 目的は成功に近付つゝあり投機は外るべし▲四綠 內外を鞏固に守るべき日誘惑は危險と知れ▲五黄 時機早きに失して用いの如くならず辛抱肝要▲六白 ふ用いの言動に依り思はぬ失敗を見るべし▲七赤 一方を切り拔くも一方より攻へらるる如し▲八白 榮よな永く保ち難く不安の念の起るべき日▲九紫 運氣旺盛なれども目下の爲に苦勞する事あり

廣告

ゲーム取
至急入用（詳細面談）
十四、五才ヨリ
平町田町 平撞球場 電四六五番

新田町
榮ちやんのしろうど料理
天下一品不味い
榮ちやんのおでん

難波醫院
內科 小兒科
入院應需 自炊の便あり
平町大町 電話五〇二番
（看護婦見習、看護婦募集）
醫學博士 難波陸

國は二ツポン。魚は凍魚
御用命は 日本水産特約 平製氷會社 電二二八・三二六番
鯛 銀鯛 平目
エビ 甘鯛 目拔
白魚 芝エビ 鮭鱒
アカサギ 貝燒 其他
ヒノマル凍魚
代理店 四丁目 ト印魚問屋 電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

贈答物に
鰹節 鹽鮭
日華生命保險株式會社平代理店
宍戸屋商店
平町四丁目
電話（鹽干部）二一五番（鮮魚部）四〇七番

現代的──紫山流盤景教授
修得短期 經費低廉
一、材料器具が安く何回でも使はれる。
一、練習二三回の初心者の作品でも直に床の間を飾るに充分である。
一、一週間一回六ケ月で修業出來る。
一、繪畫の素養全く無き老若男女どなたにも習得出來る。
紫山流盤景師範 高橋光山
平町白銀町 電話六三八番

耳鼻科 咽喉科 專門
平町南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
（入院隨意 病室完備）

醫學士 吉田久雄
吉田眼科醫院
平町紺屋町 電話六八番

皮膚の整調は フトメル で
しもやけ、たゞれ、すり傷、くさ、あかぎれ、ひび、丹毒、胎毒、水虫、やけど、
平町田町 ㊔阿部薬舖

耳鼻咽喉科
高柳醫院
平驛前（電三三六）
醫學博士 高柳博明
（入院應需 自炊ノ便アリ）（看護婦募集）

七周年記念
自轉車 リヤカー 大特賣中
二重大奉仕
武藏山一行大角力無料入場券進呈
フタバ商會
平・新川町・橋際

はつねぎ
平町公園下
桑原柔道整骨院
電話六七四

名湯 鹿の湯
湯之網鑛泉
二百餘年の昔、病める鹿が浴してゐたといふ鑛泉!! 昭和の今もこん／＼と溢れ湧いて、バスを降りれば半里位の山間に、美しい風光と共に、浴客をお待ちして居ります。
効……神經衰弱、神經痛、リウマチス、胃腸病、子供の蟲氣、婦人病
○平町から日歸り御入浴もラクです。
○關本驛、磯原驛からバスの便あり。
○關南村役場で、御案內致します。
○自炊なさる諸道具ととのつてゐます。
茨城縣多賀郡關南村湯之網
（女中募集） 元湯 松屋旅館 赤津さよ
◎御滯在、團体は割引致します。

七萬九千八人の總意は如何に反映するか？

擬裝擧國一致內閣瓦解の日に 第三區の有權者數を見る

政界突風

解散斷行の危機を孕んだ議會再開日！即ち野黨政友會が一昨九年七月八日成立以來先づ最初の試練たる第六十七議會に於て弱体內閣の醜狀を暴露し爾來引續き政界を不分明にし來つた岡田擬裝擧國一致內閣の看板を撤回さすべく、總括的不信任案の手榴彈を投ずる日ではある、來月二十日の總選擧。それは少くとも永い間の平靜に倦怠した選擧大衆の血を沸かすに充分なるものがある、處で濱三郡を區域とする第三區の有權者はどの位あるか、町村別內譯を見ると次の如く合計七萬八千九百九十九名で前回昭和七年に於ける合計七萬三千七百六十七人より五千二百三十二人（六分六厘）の增を示してゐる

有權者數

區分	今回	前回
石城	四四、七九七	四一、五三〇
双葉	一三、三三七	一三、六一七
相馬	二〇、八六五	一九、六二〇

石城

田人	六六六
貝泊	一六七
平	四、六八八
夏井	五六五
豐間	八三〇
鹿島	四〇四
玉川	五一二
湯本	三、一六八
好間	二、七二三
永戸	五四五
澤渡	三二四
神谷	七二七
大浦	八八〇
大野	七四九
上小川	四六一
川前	六五七
泉	八三七
植田	一、二五五
錦	八六〇
上遠野	九五三
川部	七八九
荷路夫	一三〇
石住	一一六
飯野	六八六
高久	五六〇
江名	一、三二〇
小名濱	二、三三二
磐崎	一、二五八
內郷	五、七八九
赤井	一、三八八
箕輪	二七一
三阪	五八三
草野	九八三
四倉	一、五三九
平窪	六四四
下小川	四七七
渡邊	四三五
山田	六五七
勿來	一、九六一
入遠野	八五二

双葉

久之濱	八四〇
廣野	八九六
龍田	八三八
上岡	八四〇
熊町	六三三
新山	七三七
浪江	一、一三六
苅野	七〇九
葛尾	四一八
大久	四四九
木戸	六七五
富岡	八五〇
川內	一、〇三一
大野	五九九
長塚	五一一
幾世橋	四〇一
大堀	七五六
津島	四四五

相馬

中村	二、八六七
飯豐	七〇三
山上	三二三
日立木	四五二
駒ヶ嶺	五三一
福田	四四三
鹿島	七三五
上眞野	九二三
原町	二、二七二
太田	六二四
小高	一、三八〇
福浦	八二三
飯曾石橋	七二六
大野	七四〇
八幡	五三一
玉野	八八
磯部	四二五
新地	七五一
八澤	五二二
眞野	六〇四
高平	五八六
石神	一、三七四
大甕	八五一
金房	八四一
新舘大須	七一九

寒さに妨げられ 選擧肅正會合不振

各所とも出席少數

平町では既報の如く去る十六日夜から各方部別に選擧肅正懇談會を催し昨夜を以て一段落をつげたが嚴寒の爲參會者は左の通り意外に少く町當局でも些か張合ひ拔けの態で更に縣からの通牒に基いて縣社子鍬倉神社々前に町民の祈願祭を執行する事となつた

（十六日）天理敎會七二名 訓盲院二九 マルトモ六八 （十七日）平陽女學校二四 湯殿山四三 淡島神社四五 （十八日）久保町二五 大日堂二〇九 品寺一七 性源寺四七 町會議事堂三二（二十日）鎌田區長宅三二 第三小學校三四 警察會議室一三 計五〇一

。。飯野村 十九日大字谷居瀬部落が懇談會を開いて出席四十餘名

。。內郷村 十九日午後一時から大字宮部落が開き出席百六十名、違反防止其他の申合せ

警官異動

今二十一日發表の縣下警官異動中平署關係では小名濱警部補派出所菊地富三氏が喜多方署野澤警部補派出所へ、後任は同所より中島政德氏が來任外六名の更迭あつた

中野氏提起の行訴 三月五日口頭審問

山野邊町稅主任參加

既往數ケ年來繫爭中の平町新川町中野勇吉氏提起に係る特別稅戶數割異議申立の行政訴訟（七年度賦課八三四圓四十錢並に九年度同上四八八圓九六錢）は舊臘來平區に於て證據調べを行つた結果、來る三月五日更に口頭審問を行ふ事になり平町側から山野邊町稅主任が參加する筈であるが結果迄には尙幾多の曲折あるものと見られて居る

小學兒童帝都見學 今年から實行

平町各小學校聯合の修學旅行は例年通り來る六月一、二の兩日時恰も東照宮時代祭りに賑ふ日光方面に行ふが、豬狩町議其他一部敎員の提案により兒童の知見を廣むる爲此の機會に於て帝都をも見學せしむる樣此程關係者參集凝議の上大体左の如き行程を以て之を實行する事に決定した、因に經費は從來より五十錢增加に過ぎぬと

△六月一日 平發―郡山―白河―宇都宮―日光（中禪寺湖、東照宮參拜）―宇都宮―上野（泊）

△同二日 東京（市內遊覽バスによる見學）―上野―平着

田町の商店有志 平銀座會創設

赤旗に景氣を煽る

―しの出賣

平町舊歲末色の新風景『平銀座會』が生れた――驛前の遠藤パン店から世界館前を經て常陽銀行脇までの各商店四十餘軒は今回合議の上店の發展とお互の親睦を目的とするこの會を組織し會長金子直祐 副會長諸橋光兩氏以下役員を擧げて目下發會を兼ねた舊歲末奉仕賣出しを行ひ軒毎に平銀座會と染め拔いた赤旗をかゝげ盛んに景氣を煽つてゐる

流感警戒

寒さ大ふけ

既報の如く本郡を襲ひつゝある流行感冒は幸ひに比較的輕症で小學兒童の缺席率も餘り惡くは無いが低學年よりも尋常四、五年程度に多い傾向で今二十一日から三日間平町の大寒に處し特に注意を要すると、十六日以降平町三校の缺席數は左の如く第三小學は含嗽、マスクの勵行奏効して缺席も通常と大差ないと

△第一校（男子一、四三二）通常缺席十七、八名の處十六日―六三 十七日―六五 十八日―九一 二十日―八五

△第二校（女子一、四八八）通常缺席十五、六名の處十六日―八一 十七日―七七 十八日―八九 二十日―九三

債鬼の前を繕ふ 口實の擬裝盜難

當局でも眉唾的に調査

債鬼の追手はげしい舊歲末の押し迫つた今日此の頃地方にも『擬裝盜難』の新戰術がチョイ〳〵行はれてゐる

これはきめ時である舊師走の昨今矢繼早に督促される債務に對しどうにも首が廻らなくなつた後の苦肉の策一番、その筋に現金の盜難屆を出して巧みに債權者へ口實とする魂膽

平署ではこれに就いて左の如く語つてゐる

以前に起つた永山氏の芝居等からこの手の戰術を使ふ者もあるから盜難屆もよく念を入れて調ねばならない、小百圓を財布に入れて一週間も見ないでゐたら何時の間にか失くなつてた等と云ふ盜難屆もあつたがこれなどは金の出入はげしいこの歲末にあつては一寸おかしく考へられるものだ

衆議院解散

今廿一日午後三時十二分衆議院に解散の詔勅下る

應齋草庵を訪ふ 七

＝日本畫漫談＝

間 添風

應『無論、だから以前の日本畫は粉本的繪畫が多かつた、最も鑑賞する人々の眼も充分粉本に通じ、有識故實にも明くなければならなかつた、而し今日の繪畫は、全然法則から放たれた畫家が、各々もつてゐる頭腦と美的直感とから書き現はされたものであるから、見る人も各自の直覺で鑑賞すればよいわけであつて、決して理窟や推理で見るべきものではない、よく素人の穴探しといつて、あの繪の遠近法は拙いとか花瓣が實物より一枚多いとか透視畫法に當てはまらぬとか細い科學的の見方をしたがるが、このやうな小さい部分的の事は敢て問題とするに足らんことじや、例へば鏑木清方君の美人畫を見給へ、あんな背の高い人間は何處にある、雪舟の山水を見給へあんな鍋のやうな山がどこにある、例へ背が高過ぎても山が自然通りでなくとも、其が全體の調和を破らぬ計りか、却つて其の繪を立派な藝術的價値ある作品として完成する場合が多いのである、であるから眞に藝術的價値ある作品を鑑賞せんとする上は、こういふ穴探しよりは、全體から來る一種の調子とでもいふものを注意した方が眞の繪の鑑賞となるのである』

言はして置けば切りが無い彼は話の切れ目に三尺絹本の枠張りを指し『あれがご製作中のものですか』と云ひ作ら枠の方へにじり寄つた

應『いや繪はもう完成してあるんだが少し氣に喰はん所があるので未だ枠から取らんでゐる、出來上つたのをご覽に入れやう』

と自ら立つて已に掛軸に表裝したものを三十本位抱へて來た軸には紙片が着いて書題が記してある、曰く曉景山水朧夜の櫻花、吉野の晩秋、深山夕映等の月並の題もあるが、月下の少女、故鄉の思出、初戀の春など頗るセンチメンタルの題もあり、又大黑天、恵比須家七福神の宴等の古典的な書題も着いてゐた、して見ると書伯はあらゆる方面の繪を書くものと見られる、無論現代ではもう畫風も古臭くなつたが大家に中村不折がある日本畫と洋畫と書道の三拍子を完全にやつてのける點では大觀でも栖鳳でも三舍を避けてゐるが、今書伯の持ち出した軸の題を見ると、各派各流に亘つてゐる畫家こそ正に應齋で全日本畫家の數は空の星程ゐるが漸く多方面の繪を書く畫家は應齋を以て覇者とせざるを得ない

◇―――◇……

町豫算編成進捗

既に委員會迄漕ぎ着けた

土木、水道兩部

平町の十一年度豫算編成は目下各部毎に急いで居るが土木、水道兩部がトップを切つて此程何れも委員會を開き夫々協議する處あつた水道部は前年度繰越し事業其他で目ぼしい新規事業はなく、土木部とて継續排水、修繕工事等で占められて居るが總額は十年度の經常臨時合計三萬餘圓に比し約一割餘の增額で、既報大貞脇とハシモトヤ糸店間の町道及び二丁目花澤米店脇南町間谷口通り（延長六十間、幅員平均三間）の簡易鋪裝を行ふ事となり目下受益區と負擔金等の準備を進めて居るが、該鋪裝は當局としても大乘氣で地元半額負擔なら實現したいと希望して居る

共德丸表彰

鰮水揚高一千萬貫

小名濱漁業組合所屬鰮揚繰網漁船共德丸は昨年一ヶ年に鰮九百九十六萬三百十貫金額價格十五萬六千八百四十四圓を水揚げし濱三郡隨一の好成績をあげたので縣水產會は三月上旬表彰式を擧行優勝旗と銀盃一個を授與す

舊歲末の街物騷

吳服類三百餘圓分 自轉車ぐるみ盜まる

平町二丁目伊關吳服店方番頭平山武男(二五)君は昨二十日夜七時頃小名濱町本通り小濱長太郎方で集金中自轉車に載せ戶外に置いた吳服類（價格三百餘圓）を車ぐるみ盜まれ早速平署に屆け出た

竊盜男起訴

住居不定無職朝鮮慶尙南道四川郡西浦面自海里八七〇生れ姜奉佑(四三)が舊臘十七日宮城刑務所を出獄、地方に流れ込み去る九日午後七時頃四倉町醫師門馬倉次郎方から醫療器十數點在中の黑革鞄を竊取した外數件の竊盜を働いた事件は平檢事局濱田檢事係取調べの上起訴され近く平區小林判事係り公判開廷されると

。。。。。鹿島青年團在軍改選

鹿島村青年團では此程の改選で團長國部嘉雄、副團長鯨井幸文兩氏、尙在鄉軍人分會では分會長赤坂稔、副會長鵜沼敏德兩氏

ガ車沿線町村長協議

三月から開始されるガソリンカー運轉に關し關係町村長は今二十一日午前十時から平町會議事堂に會同諸種陳情等に關し種々打合せを行つた

舊歲末救濟金分配

平助成會では既報の如く舊歲末極貧者救濟として今二十一日町內九十四戶三百四十名に一人當り五十錢、合計百十四圓七十錢を贈つた

雜踏緩和道路使用許可

平商工會では舊年末及二日市當日の雜沓を見越し左の如く道路使用の許可を受けた

（期日）一月十八日より同二十七日迄（舊十二月二十四日より一月四日迄）（使用市）縣道內側溝より二尺迄、國道同三尺迄

誤比府

◇近き將來には犯罪捜査の第一線に活躍させやうと力んでゐた平署司法主任齋藤さん、ご自慢の愛犬アルザークン（シェパード）がけさの七時頃いつもの通り朝の散策運動中氣まぐれを起してその邊の野犬と一緒になつたらしく忽然姿を晦したのでそこは御商賣柄、早速警察電話で各方面に『シェパート生後八ケ月、丈二尺、毛色黑、四肢褐色其他云々』と手配の上目下血眼で『愛犬や――い！』

吉例 二日市初賣

平町吳服商組合

一年中の御禮として安賣と景品の大競爭！

良品大廉賣各店競ふて大景品の山！

◎午前一時開店◎

當日は混み合ひますから！

商品券の御買上げが最も便利です！

……大景品の山……

商品券

當日は例年に倍し賑々しく御來店の上御用命を御待ちいたします。

組合加盟店（イロハ順）

伊關吳服店 平二丁目
小野榮吳服店 平四丁目
渡邊吳服店 平土橋
川又商店 平白銀町
吉田屋吳服店 平鍛冶町
谷屋吳服店 平新川町
松屋吳服店 平播槌小路
安積屋吳服店 平古鍛冶町
北川吳服店 平研町通り
三井吳服店 平三丁目
諸橋吳服店 平新川町
仙臺屋吳服店 平一丁目

舊二日市景品に就て

一、現金にて御買上の方に景品を差上げます

一、現金にて商品券御買上の方にも同樣景品を差上げます

一、但し商品券にて品物御買上の場合景品は差上げません。

二日市の景品は右の通り御實行下さる樣希望いたします。

平商工會

平町各商店 御中

平町御客樣 御中

萬年筆なら!!! ハーモニカなら!!!

何んといつても定評ある 佐々木商店へ

品種豐富 責任販賣

大景品付二重サービス

萬年筆美麗金文字御名入

ハーモニカ大懸賞付

舊二日三日

平町公園前角 忠 佐々木商店 電話二三三